

## 行事報告書（研修）

報告者：鹿本郁代

行事名	2023年12月度 自然観察会
実施日時	2023年12月7日（木）10:00~15:25 天候：晴
場所	甲山森林公園
テーマ	晩秋の樹木の生き様
講師	児玉勝久さん
参加者数	21名
概要	<p>★観察コース：パークセンター前～西入口～噴水広場～野外ステージ（昼食・ミニ講座）～北入口～展望台～みくるま池～（花時計：まとめ）～パークセンター前</p> <p>★児玉さんより「ホントに冬？」 今年は何年に比べてどうだったか。 7～9月が高温で11月上旬も高いが中旬に一時的に寒波。降雨が6月に少しと8月の台風程度で少ない。例年に比べて高温・湯水状態で今年は秋が遅れ紅葉の色づきにも影響している話。</p> <p>★色づきの観察 秋の葉の色づきはクロロフィル（緑）カロテノイド（黄）アントシアニン（赤）フロバフェン（褐色）の色素が入り混じり、それ等の量の多少で左右される。 サクランボ類（葉が色づくときすぐ落ちる。他の樹木は色づいても残るものが多い。） ・コックハネウツギ・モチツツジ・ウルシ・ネジキ・コナラ（綺麗なハハソモミジ）・エノキ・カマツカ・カキノキ・リョウブ・ドウダンツツジ・コバノミツバツツジ・ハゼノキ・ヤマナラシ・イロハモミジ・クヌギ等</p> <p>★果実・冬芽の観察 ヤシャブシ・サクラバハノキ・アオツツラフジ・カナメモチ・ナツハゼ・ザイフリボク・ウラジロノキ・アオハダ・ゴンスイ・イヌビワ・クチナシ・サンシュユ・スイカズラ・クスノキ・クヌギ・イヌシデ（果苞の片側だけに鋸歯があり分かれて種を飛ばす。）イチゴノキ（花・果実）ハリエンジュ（対の針に挟まれた葉痕が面白い・・・托葉起源）センニンソウ（種を飛ばすため毛を出す）等</p> <p>★終わりに、採取した果実やシュートなどを使って本日の観察の復習。他に・・・ ライターであぶって見る。ヤブニッケイ・サクラバハノキの葉裏の白いのは蛾・ソヨゴの葉（パチッと音がする。またモチノキ科の葉なので死環が確認できた。） ・ネジキ、イロハモミジなどの一年枝の赤色の色づきについて・・・ ・拾った葉などの長期保存の仕方：コピー・ラミネート加工等で美しく保存可。</p> <p>★ミニ講座（樋口さん） カラスと生ゴミ 野鳥の寿命が1～3年に比べカラスは6～7年。長いもので20年。体力が無くなると寝ぐらの中で死ぬので死骸を見かけない。数は減ってきているが街中にたくさんのエサがあるのを学習し知能も段々上がっている。視力は人間の5倍見える。数羽で行動し、網をつついてゴミ袋を取り出す。 カラスと人間の知恵比べ。ゴミが見えにくくする。鉄製のゴミ収集ボックスなど対策が必要です。</p>
感想	色づいた葉や果実を落としていない樹木がまだまだたくさんあり、平年のこの頃との違いが何故なのか実感しながら観察できました。透視光で見るイロハモミジやドウダンツツジの赤がとても綺麗で今年最後？の紅葉を楽しめました。



出発前のミーティング



コナラ (ハハツモミジ)



ヤシャブシ (冬芽・果実)



クチナシ (果実の形は?)



トベラ (果実)



イヌシデ (翼果)



カナメモチ (バラ科)



展望台にて

今日一番の紅葉

みくるま池で

センニンソウ

果実に毛：名の由来

